グループワークの概要

【コーディネーター・まとめ】国際医療福祉大学 小田原保健医療学部
副学部長/看護学科学科長/教授 荒木田美香子先生

出席者が24の小グループに分かれてグループディスカッションを行った。

テーマ:健康課題の明確化と連携事業の実施に向けて

内容:①健康課題の解決に向けた連携体制の実情と課題について
②健康課題を解決するために必要な連携体制について

【発表】

3つの小グループが発表を行った。

課題	データの分析が十分にできておらず、また糖尿病の重症化予防の取り組みが国保にとどまっている。
具体的な取組	糖尿病重症化予防対策の保健指導の展開のために、 ①県・市が地域の保健スタッフに対し、国保以外の住民に対する相談対応、保健指導を行うような意識付けを行う。 ②協会けんぽが、健診機関に対して健診記録様式に医師の意見欄を作成・記入してもらい、医師の指示をもとに保健指導を行う。

課題	保険者、労働局側とのデータ共有が十分できていない。職域側のニーズを共有できていない。
具体的な取組	地域・職域の取り組みの方向性や考えの違いを理解するため、地域と職域の所有するデータやニーズの相互理解をすすめ、互いに利用し合えるよう、担当者レベルで自由に話し合える場を設ける。

課題	健診受診率の向上に課題がある。有所見率が高い。
具体的な取組	健診受診率を向上させるために、 ①商業施設、商工会議所、関係機関と連携し、イベントや広報分野での連携を強化する。 ②労働局や医療保険者が、小規模事業所の健診実態把握や有所見者への受診勧奨を行う。

【講評】

- 連携事業を進めていく際は、各立場の関係者の目線を合わせ、双方のニーズを理解して、お互いに持っている情報やニーズを発信し合うこと、そして、今回のグループワークのように、関係者がディスカッションしていくことが重要である。
- これらを通して、職域においては事業所へ健康づくりの取り組みが届くように、そして地域においては自治体のサービスが住民へ届くように事業を進めていただきたい。